

01 地域カパワーアップ大作戦 (継続_令和7年度(2025年度)で4年目)

【事業目的】

地域団体等と地域貢献したい事業者等をつなげることで**地域課題の解決を図るとともにコミュニティを活性化させ、持続する地域づくりを支援する。**

【事業概要】

地域団体等と地域貢献したい事業者等をマッチングするためのワークショップを継続して開催。

また、テーマを設定したワークショップも開催し、共通する課題の解決に向けた効率的なマッチングを目指していく。

ワークショップは区内の3まちづくりセンター（託麻・秋津・東部）で各2回（例年どおり）開催予定。

【マッチング実績】

令和4年度 9件、令和5年度 30件、令和6年度 26件



事例発表会の開催

地域と事業者等をマッチングするワークショップの開催



【事業効果】

- ・地域と企業等との新たなつながりにより地域コミュニティが拡大する。
- ・人材不足などの地域団体等の課題が解決される。
- ・民間事業者等の柔軟な発想による新たな取組が実現し地域コミュニティが活性化する。

【今後の展開・方針】

地域が抱える様々な課題をもとに、まちづくりセンターのロビー等を利用した少人数でのスモール型のワークショップ開催も検討していく。優良事例については表彰を行い、今後のマッチングへと繋げる。

【懇話会などの意見】

- ・地域課題解決に向けて企業の人・物資・金銭、それぞれの面で協力を得てはどうか。
- ・企業がもつ知的な面、人的な面での協働が得られることは、地域活性化にとって望ましい。
- ・地域課題解決のひとつの手法として進めていってほしい。

02 地域の文化スポーツ行事応援事業 (継続_令和7年度(2025年度)で11年目)

【事業目的】

文化やスポーツが地域住民の生活に潤いを与え、人と人のつながりを生み出す重要な役割を果たすことに鑑み、地域の文化・スポーツ行事（地域行事）における表彰や周知活動に関し区役所が積極的に支援する。

【事業概要】

地域行事の主催者からの申出を受け、東区長賞等を進呈する。東区長賞等を授与した地域行事を東区のホームページで紹介するなど、積極的に周知するとともに地域行事の掘り起こしを行う。

- ・東区長賞等を授与する文化スポーツ行事について東区ホームページで紹介するなど、積極的な周知活動を行う。



▲R6.7 健軍夏祭り
のどじまん大会



▲R6.8 泉ヶ丘
イキイキ標語コンクール

【事業効果】

地域行事の持続的な活性化につながるとともに、新たな地域行事の創設や地域活動等における後継者の育成が期待できる。

【今後の展開・方針】

今後も積極的に新たな地域行事の掘り起こしを進める。
より広い世代、地域にPRしていけるよう東区ホームページやSNSでの発信を積極的に行う。

【懇話会などの意見】

- ・地域行事を知ってもらうための広報媒体（目を引くポスター、チラシの制作等）を検討すべきではないか。
- ・SNSを活用するなど、世代に合ったPR展開をすべきではないか。
- ・地域を大切にする心は、小学校から高校までの間に「地域で何を経験したか」が大切である。
- ・中学生までは「地元」、「地域」、「校区」に根付いた生活をするので、地域を大切にする。

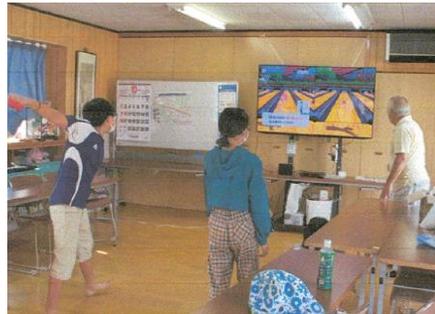
03 東区地域コミュニティづくり支援事業 (継続_令和7年度(2025年度)で13年目)

【事業目的】

自主自立のまちづくりを推進するために、地域団体が主体的に取り組む地域のコミュニティづくりを支援する。

【事業概要】

地域が実施するコミュニティづくりに関する取組について、5～30万円を限度に補助金を交付する。
令和6年度申請件数は21件。



▲過去の補助金を活用した地域活動事例
イベント開催や、公民館でのeスポーツを活用した交流事業など、多岐にわたり活用されている。

【事業効果】

地域の課題を解決するために、地域自ら事業を企画立案し、実践することによって自主自立のまちづくりの実現に繋げることができる。

【今後の展開・方針】

多くの団体に補助金制度を活用してもらい、地域のコミュニティづくりを活性化させるために、過去の補助金の活用事例の紹介など、制度の周知を継続して行っていく。

あわせて、他に利用可能な補助制度等の情報収集・発信を行ったり、新たなまちづくりの取組みに積極的な地域の活動の支援強化を行う。

【懇話会などの意見】

- ・地域が主体的に自ら企画立案した事業を、行政側が積極的に支援していくことが必要。地域活性化のためにも継続してもらいたい。
- ・地域活動に対しどんな支援があるのかわからないので、まずは知ってもらうことが重要。

04 地域の情報ネットワーク利活用支援事業 (継続_令和7年度(2025年度)で5年目)

【事業目的】

地域団体等でICTを活用し、構成員間における協議、連絡、情報共有の円滑化・効率化を図っていただくことで、新たな人材の掘り起こしや、自治会等の役員の負担軽減を図る。

【事業概要】

①「ICT活用Book」の利活用

ICTを活用した地域団体の活動事例の紹介や、より具体的な地域活動へのICT活用方法（LINEを使った回覧板、アンケートを使ったイベント参加者集計など）を「ICT活用Book」として提案し、ICTを取り入れた地域活動をイメージしてもらう。

②講師派遣事業

要望に応じて地域団体へ講師を派遣し、講座を実施することで地域活動へのICT導入を促す。

【事業効果】

- ・地域活動にICTが取り入れられることで、地域活動の負担軽減や、新たなコミュニティづくりの手法が生まれる。
- ・ICT活用を得意とする若い世代の人材の掘り起こしが期待できる。

【今後の展開・方針】

地域活動における効率化・負担軽減の一助となる適当なICT技術の導入を迅速なタイミングで行うため、令和8年度は「地域活性化支援事業」の中で継続して支援強化を行う。

【懇話会などの意見】

- ・地域では、新たな取組みを創出しにくい。「こういう事ができるのやってみませんか」というような仕組みにすると、多くの団体が取組みやすくなる。
- ・地域活動に対しどんな支援があるのかわからないので、まずは知ってもらうことが重要。



◀自治会長研修において、ICTを活用した地域活動をされている取組みを紹介

05 あさひばリビング活動支援事業 (継続_令和7年度(2025年度)で7年目)

【事業目的】

高齢者から若い世代まで多様な地域住民が利用しているというまちづくりセンターの特性とロビーのスペースを有効活用することで、多世代間の新たなコミュニティの派生を促す。

【事業概要】

あさひばリビング（秋津まちづくりセンターのロビーにある地域交流スペース）で、地域にお住いの特技をお持ちの名人さんが「市民先生」となり、様々なテーマで年間6回程度「あさひばリビングワークショップ」を開催する。また、地域のまちづくり活動の様子やまちづくりに役立つ情報等を発信する。

【令和6年度】

- ・5月29日 争族にならない相続 ～資産の試算～
- ・6月13日 今日からはじめる発酵生活
- ・7月27日 お金の秘密、教えちゃう！
- ・9月7日、21日 世界の扉を開けてみよう
- ・12月20日 ミニ門松づくり
- ・3月7日 粋を知る お座敷あそび
- ・3月13日 コーヒーの美味しい淹れ方（CKD予防）
- ・3月25日 あなたの色を見つけよう ～パーソナルカラー診断&カラーセラピー～



【事業効果】

多様な利用者同士が対話することで世代を超えた新たな繋がりが生まれるとともに、地域情報等が共有され地域課題の解決につながることを期待できる。また、こどもの安全な居場所としての役割も果たすことから地域全体で子どもたちを見守ることにつながる。

【今後の展開・方針】

- ・ワークショップを行う中で、参加者からまちづくりのアイデアや意見を聴取し、事業内容の充実を図っていく。
- ・多世代や障がいのある方も参加することができる内容を検討する。

【懇話会などの意見】

- ・地域の高齢者等を「市民先生」として活用。
- ・まちセンにフリースペースをつくる。
- ・「人と人とのつながり」や「世代間交流」が重要。
- ・世代間で学び合うなど、お互いに支え合っていくことが重要。
- ・世代を超えて、また障がいのある方も一緒に利用できる場を増やしていくことは、孤立や孤独問題の解消につながる。

06 災害に「そなえる」タスク（※旧「東区防災力アップ事業」） （継続_令和7年度(2025年度)で14年目）

【事業目的】

- 東区内の各コミュニティごとの災害への意識・対応力を上げることで、区全体の災害対応力向上と、熊本地震を風化させないまちづくりを目指すもの。
- 町内・校区・各種団体などをターゲットに、それぞれのコミュニティで取り組む防災活動へ、2種の区役所タスクとして地域の防災力アップを応援し、災害へ備えていただく。

【今後の展開・方針】

- 「もしも」に「そなえる」ため、正常性バイアスの中にも危機感醸成を目指す。
- 地域諸団体に限らず、地域防災リーダー（防災士）のスキルアップも検討。
- 毎年最低1校区の地区防災計画策定を進め、区内全校区策定完了を目指す。

【懇話会などの意見】

- 各地域ごとに（町内）若い世代、支援が必要な方などを把握し、災害の際に協力出来る体制づくり。
- 防災活動にたずさわっている人たちの高齢化、若い世代の成り手確保が必要。

【事業概要】

タスク① 「『そなえる』防災講座」

- 「講話をしてほしい!」、「イベントができないか?」、「こども向けに何か取組ができないか?」など町内会・老人会・育成クラブからお問い合わせいただいています。
- 体験、グッズ作成、組織づくりのお手伝い、防災士や気象予報士の講師派遣など、多彩なメニューで様々なご要望に応じ、災害への「そなえ」の形づくりを支援します。
- 年中受付中です。

HUG体験会



出前講座（企業コラボ）



防災ポシエットづくり



【事業効果】

- 防災の、意識を高めるきっかけになる！
新しい知識が得られる！
関心が高まる！
身近になる！
「そなえ」になる！
住民共通の価値観が生まれる！
- コミュニケーションが図れる！
- 共助の体制が生まれる！
- 地域の絆も深まる！

タスク② 「地区防災計画策定支援」

- 住民同士で地区(校区)の課題・対策を考え、活動体制・校区ルール・今後の取組方針などを盛り込む「地区防災計画」の策定を支援。
- 校区のニーズに応じた「簡易版」対応も検討。
- 策定のため、ワークショップ、専門家のアドバイス・分析、計画書・マップ作成を提供。



災害に強いまちになる!

07 あさひばみんなの防災フェスタ開催経費 (継続_令和7年度(2025年度)で9年目)

【事業目的】

地域住民等に防災に関する知識を楽しみながら学んでもらい、地域の災害対応力のさらなる向上を目指す。

【事業概要】

あさひば地域（秋津・桜木・桜木東・若葉校区）は平成28年熊本地震で甚大な被害を受けるとともに、複数の河川が隣接しており、大雨や台風時には浸水する可能性もあることから防災フェスタを開催し、様々な体験型ブースを設置し、こどもから高齢者まで幅広い年代の参加を促す。同時に、防災講演会や熊本地震の記憶を未来へ紡ぐ写真展を行う。

※令和6年10月6日（日） 午前9時～

【ブース体験】

水害VR体験、浸水ドア・降雨体験、VR消火体験、こども用防火服試着、防災食チャレンジ！、防災ポシエットづくり等

【令和5年度の開催実績】

- ・10月21日（土）10時～正午 約300名参加



【事業効果】

- ・体験型にすることで、災害を自分事として捉えることができる【自助の強化】
- ・校区防災連絡会等と連携することで、各団体の知識や経験の向上につながる【共助の強化】

【今後の展開・方針】

- ・近年の激甚化する気象状況を念頭に、新たな体験型ブースの設置を検討する。
- ・地域力パワーアップ大作戦の参加企業にも参加していただき、事業の横展開を図る。

【懇話会などの意見】

- ・子育て世代を対象に「こどもの遊びの先に防災」のように、親子で知識・能力の向上を期待。
- ・住民一人ひとりの防災意識を高め、継続させる必要がある。

08 安全安心のまちづくり事業 (継続_令和7年度(2025年度)で12年目)

【事業目的】

小学生～高校生をはじめ区民へ啓発活動を実施し、交通安全・防犯意識が向上し、安全安心なまちづくりの実現を目指す。

【事業概要】

(1) 高校生との協働事業

5月の自転車月間に、高校生の登校時間に合わせた啓発グッズの配布を東区内の4高等学校と協働で実施。

(2) 区民啓発事業

- ・ 東区内の小学校新1年生へ交通安全啓発グッズの配布
- ・ 広報車での交通安全の呼びかけや防犯パトロールを実施
- ・ 警察・交通指導員・防犯協会等と連携した啓発活動の実施

【事業効果】

交通安全・防犯意識の向上により、交通事故や犯罪の発生の減少に繋げる。

【今後の展開・方針】

より多くの区民に交通安全・防犯意識の向上の啓発ができるようホームページ・SNSを活用した啓発活動を行うとともに、特に自転車マナーの向上を目指して高校生等へ向けた効果的な啓発グッズの配布等を実施する。

【懇話会などの意見】

- ・ 自転車の高校生が右側通行や車の間を縫って走る危険な走行をしている。
- ・ 高校生の交通意識を改めるため、抜本的な取組が必要ではないか。



熊本星翔高校での啓発活動の様子

自転車の **スマホ・酒気帯び運転 罰則強化** 令和6年11月1日 道路交通法改正

運転中のながらスマホ	酒気帯び運転およびほう助
違反者は 6ヶ月以下の懲役又は 10万円以下の罰金	違反者は 3年以下の懲役又は 50万円以下の罰金
交通の危険を生じさせた場合 1年以下の懲役又は 30万円以下の罰金	自転車の提供者は 3年以下の懲役又は 50万円以下の罰金
	酒類の提供者・同乗者は 2年以下の懲役又は 30万円以下の罰金

東区役所 総務企画課

啓発グッズデザイン (絆創膏)

09 子育て支援ネットワーク活性化事業 (継続_令和7年度(2025年度)で11年目)

【事業目的】

子育て世帯が、安全・安心して子育てができるまちづくりを推進するため、区や校区単位の子育て支援ネットワーク活動や地域の主体的な子育て支援活動への支援を行う。

【事業概要】

- ・校区子育て支援ネットワーク活動の支援
- ・東区子育て支援ネットワーク運営委員会・連絡会の支援
- ・東区および校区子育て支援ネットワーク活動のSNSを活用した情報発信・東区子育て支援情報チラシの配布
- ・中高生と乳幼児とその保護者との交流会を校区子育て支援ネットワークと協働で実施
- ・子育て世代向けの防災啓発を継続的に実施



高校生と乳幼児とその保護者の
交流会



東区子育て支援ネットワークの活動
(R6年度子育て中の保護者と運営委員で
ワークショップの開催)

【事業効果】

- ・ネットワークの活性化による子育て支援活動の充実、孤立化の予防・児童虐待防止につながる。
- ・中高生と乳幼児とその保護者、地域役員等の多世代交流を行うことで、命の大切さを学び、地域のつながりづくりに役立つ。
- ・若い世代及び地域全体の防災力向上が期待できる。

【今後の展開・方針】

- ・子育て支援ネットワーク運営委員会・連絡会の開催、活動内容の工夫、効果的な情報発信や啓発を行い、子育て支援ネットワークの活動の充実を図る。
- ・校区子育て支援ネットワーク活動の活性化につながる研修会を開催する。

【懇話会などの意見】

- ・民生委員等の関係機関と連携を図り、地域での子育て支援活動や性教育を行うことが大事
- ・若い世代に活動を周知する為にSNSの活用が必要
- ・世代間交流を行い、人を育て受容する、認め合う社会を作る
- ・育児に必要な情報は取りに行くが、調べる手間がかかる

10 地域ささえあい推進事業 (継続 令和7年度(2025年度)で12年目)

【事業目的】

認知症の人とその家族への正しい理解を深めることにより、区民による支え合いを推進する。また、自らの健康状態に応じて自分の力を活かし社会生活を送る意識の浸透を図る。

【事業概要】

- ・認知症サポーターを対象に当事者の視点を重視した啓発活動やボランティア活動を実践できる人材として、認知症サポートリーダー(認とも)を養成する。
- ・若い世代を対象とした、認知症の人とその家族への正しい理解を深めるため、認知症VR体験(ジュニア向け)、認知症に関する映画の上映会などを開催する。



令和6年度映画上映会の様子

・区民の自立と共助の意識を高め、また生活上の困難を抱えても社会から孤立せず地域との交流を続けられるよう、区民、介護事業所等を対象とした啓発を実施する。

- ▶ いきいき百歳体操体験イベント
- ▶ 転倒予防に関する研修会
- ▶ 医療と介護の連携に関する研修会
- ▶ 人生会議セミナー

いきいき百歳体操体験イベント

【事業効果】

- ・認知症への区民の正しい理解が深まり、地域のボランティア活動が活発になることで共助の意識が浸透し、区民主体の支え合いが促進される。
- ・区民の介護予防と自立意識が高まり、健康寿命の延伸につながる。

【今後の展開・方針】

- ・地域における認知症の人とその家族への関わりを深めるため、地域、企業、学校など関係機関と連携し、地域の幅広い世代の認知症への正しい理解が浸透する取り組みを実施する。
- ・介護予防や自立支援・重度化防止について、啓発活動を展開する。

【懇話会などの意見】

- ・みんないつかは高齢者になるので、「自分ごと」として体験できる機会を作ってはどうか。
- ・ボランティアとボランティアを必要とする方がつながる場をつくる必要があるのではないか。

11 東区健康まちづくり推進員支援事業 (継続 令和7年度(2025年度)で9年目)

【事業目的】

健康を幅広く捉える視点を持ち、地域組織や関係機関と協働して東区の健康まちづくり活動を推進する人材(健康まちづくり推進員)を育成し、活動を支援する。

※健康まちづくり

市民との協働による健康づくりをテーマとしたまちづくり

【事業概要】

- ・健康まちづくり推進員養成講座の開催
- ・健康まちづくり推進員協議会の活動支援
(定例会・スキルアップ研修・推進員同士の交流・地域における健康づくり活動等)
- ・健康まちづくり推進員協議会で、県立大学と協働で啓発媒体を作成し、地域での啓発活動を行う。
- ・若い世代からの生活習慣病予防(高血圧予防・糖尿病予防・骨粗鬆症予防)の啓発
- ・健康まちづくり推進員協議会活動のSNSを活用した情報発信



TSUTAYAでの健康づくり活動



熊本県立大学生と健康づくりについて意見交換

【事業効果】

- ・東区の健康まちづくり活動を推進する新たな人材が確保できる。
- ・東区の健康まちづくり活動の活性化につながり、東区住民の健康意識が醸成される。

【今後の展開・方針】

本事業の取組を今後も継続し、健康まちづくり推進員の活動の広がりを通して、東区の健康まちづくり活動を推進していく。

【懇話会などの意見】

- ・健康まちづくり推進員支援事業は、国保データを分析し使うともっとよりよくなるのでは。
- ・ボランティアの周知、まずは知ってもらうことが必要(地域のどこで活動しているのか)
- ・ボランティアとボランティアを必要とする方がつながる場をつくるのが大事
- ・企業の参入(地域カパワーアップ大作戦の活用)



東区民まつりに健康づくり啓発ブースを出展

12 Instagramによる地域活性化事業 (継続_令和7年度(2025年度)で2年目)

【事業目的】

東区公式Instagramを活用し、特に10～30代半ばの若い世代へ東区の魅力を発信することで東区への愛着や郷土愛を育み、まちづくりへの関心を高める。

【事業概要】

「人、食、風景・文化資源」をテーマに、東区の魅力を写真やショート動画で作成し、東区公式 Instagram 等に投稿し発信する。

東区の魅力に関する情報は、地域担当職員をはじめ、各課が地域に出向く際や、外勤時などに収集するほか、委託業者にて時期に応じた情報を収集する。

【事業効果】

Instagram の活用により若い世代のまちづくりへの関心が高まることで地域活動への参加を促し、地域の活性化につながる。



▲R6.8 東区公式Instagramリニューアル (動植物園夜間開園の様子)

【今後の展開・方針】

収集した「東区の魅力」を活かし、東区の見どころを巡る取組（東区オリジナル御朱印作成）などを実施を検討し、地域の活性化を図る。

東区公式Instagramのフォロワー数増加に継続して取り組む（将来の目標値7,000人）

【懇話会などの意見】

- ・若い世代に周知するためにSNSやインスタ、TIKTOKなどで話題づくりもあっていいのではないか
- ・若い世代に東区の魅力を！
- ・健軍や地域をよくしたい若者はいる←どう取り込むか
- ・インスタグラム・フェイスブック・HPの活用
- ・若い人に向けては若い人が発信(SNSの発信について)
- ・東区の知られていない文化・魅力を発信し、郷土愛をはぐくむことが重要。
- ・郷土愛をはぐくむことで地域に愛着がわき、まちづくりに関心をもってもらえる。
- ・東区にある自然、歴史、文化など強みを活かしたまちづくりをしてもらいたい
- ・東区には、託麻三山以外に自然の宝庫と言える江津湖がある。この山と湖の両方を活かして、魅力向上策を講じてほしい。

13 美化活動啓発事業 (継続_令和7年度(2025年度)で4年目)

【事業目的】

- ①次世代を担う地域の児童やその保護者に対し、地域で抱えるごみ問題について考えてもらう機会を設け、問題を正しく理解し、現状を改善する必要があることを強く意識してもらう。
- ②「ごみが分別されず出されている」、「ごみステーション(ST)が清潔に保たれていない」といった地域が抱えるごみ問題を区民に周知し、その解消に向けた取組の啓発を図る。

【事業概要】

- ・学校に協力を依頼し、地域で抱えるごみ問題の解消に向けたポスター作品を募集する(東区「まち☆キラ」コンクール)。
- ・広く周知するため入賞作品をまちづくりセンターなどに巡回展示するとともに、最優秀賞を受賞した作品をベースとした啓発ポスターを制作し地域に配布する。

東区「まち☆キラ」コンクール応募者数

開催回	応募者数
第1回(R4年度)	34名
第2回(R5年度)	約7倍 167名
第3回(R6年度)	233名

ST美化啓発ポスター



【事業効果】

- ①作品制作に取り組んだ児童やその保護者が、STの適正管理に関する問題について考えることで、地域の抱えるごみ問題に積極的に取り組むことにつながる。
- ②STや公共施設に展示されたポスター作品を見た地域の住民が、地域のごみ問題について認識し、ごみの分別やSTの適正管理への意識が高まる。

【今後の展開・方針】

- ①本コンクールへの認知度が高まり、応募者数が順調に増加し、ST美化啓発ポスターを利用した地域からも概ね好意的な意見が出ていることから、当面は本コンクールを開催し、地域の抱えるごみ問題を解消できるよう引き続き取り組みたい。
- ②併せて、より多くの児童その他の住民に取り組んでもらえるよう新部門(例)キャラクター制作の創設を検討したい。

【懇話会などの意見】

- ・拾ったごみを用いたアート作品展や、ごみ拾いグランプリ(ごみ集めレース)など、児童が楽しめるイベントを企画すべきではないか。
- ・若い世帯は仕事の都合等により、地域の清掃活動等への参加が少ない状況であるが、みんなでSTをきれいにする取組ができればよい。 など

14 若者まちづくりリーダーズ事業 (継続_令和7年度(2025年度)で2年目)

【事業目的】

「地域を知る」「地域のために自分ができることを考える」といった体験を通じて、郷土愛を深めてもらうことを目的とする。

高校生ならではの視点を活かして事業を企画・実施することで、まちづくりの成功体験を得てもらい、将来、地域を担う人材としての第一歩を踏み出すきっかけとする。

【事業概要】

高校生が地域課題を学び、企画から実践までを行うまちづくり事業

参加者：東区に在住または通学する高校生 8名

時期：6月～8.3月

地域：健軍商店街

内容：ワークショップ7回程度→実践→振り返り



【事業効果】

- ・高校生が社会人になった時、地域活動を特別なことではなく、当たり前前のライフワークとして意識付けることができる。
- ・地域のためにできることを、自ら考え、同世代同士力を合わせて成し遂げる楽しさを知ってもらう。
- ・高校生が頑張っている姿を地域に見せることで、30～50代の親世代にも地域活動への意識付けになる。

【今後の展開・方針】

- ・事業実施の場の拡大
- ・高校との連携を密にし、高校生の参加をより促す。
- ・高校の授業と関係することで、活動回数を増やしより密度の濃い事業展開を図る。

【懇話会などの意見】

- ・高校生が、大学生や20代社会人などと交わることで相乗効果が得られるかもしれない。
- ・子どもたちが考えながら、体験するという事は非常に重要。
- ・今の高校生等が将来地元に戻ってきた時「ここを守りたい」という気持ちをもってもらうには、今楽しい経験をしてもらう必要がある。

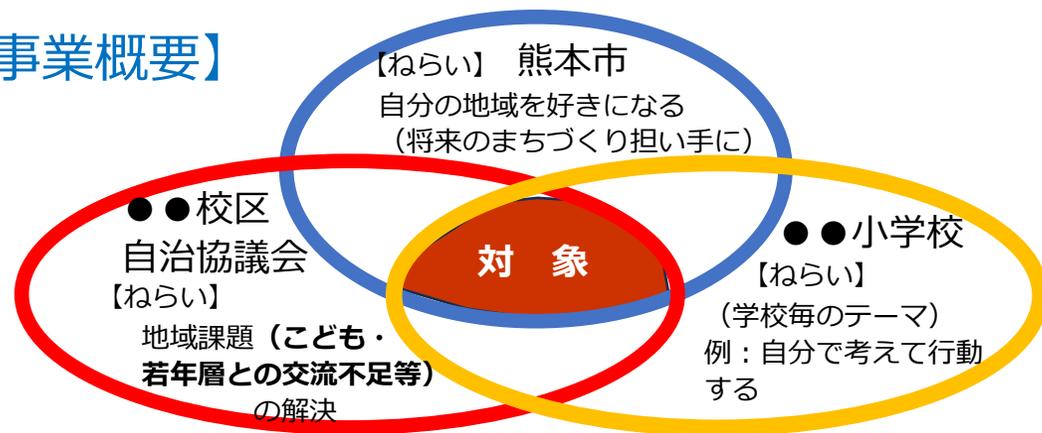
15 まちづくりリーダーのたね事業（新規）

【事業目的】

こどもが地域の大人とともに地域課題（こども・保護者との交流不足等）の解決に取り組む場をつくり継続することで、こどもの地域に対する愛着を育み、将来の「まちづくり衝動」の原体験（たね）となり、主体的な地域づくりへの参画（リーダー等）へと繋げる。

また、活動にこどもの保護者や若年層が参加することで、地域の活性化を推進。

【事業概要】



託麻6校区から**モデル校を選定**。以下のスキームで実施・検証を行い、次年度の活動につなげていく。（順次校区を拡大）

- ① 地域の課題に関するワークショップ（地域の大人達も参加）を**小学校6年生の授業**で行い活動案を作成（全12時限：9月開始予定）。
- ② 活動実施に向けてボランティア募集（小中学生、保護者、PTA、あいぽーと等：11月頃募集予定）※「地域ラブラトリー」（熊本県立大学）との連携など大学生との協働も図る。
- ③ 活動実施(12月～3月)→結果報告、周知

【見込まれる効果】

- ・こども、保護者、学生がまちづくり（自治会活動）に興味関心を持つ。（自分の地域を好きになる）
- ・多角的な視点でまちづくりが可能となる。
- ・将来のまちづくりの担い手（リーダー）に。
- ・教育委員会との連携強化

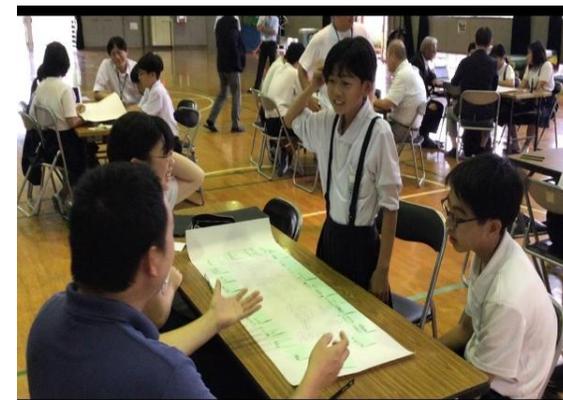
【今後の展開・方針】

R8年度も託麻北校区での取組みを継続しながら、他校区での展開を図る。

【懇話会などの意見】

- ・地域の担い手不足が課題（R6まちづくり懇話会）
- ・小学校高学年や中高生と協働するまちづくりが必要（R6年度第2回懇話会）
- ・PTA休止に伴う世代間交流の不足（託麻北校区自治協議会）

【ワークショップのイメージ】



16 まちづくり懇話会等開催経費 (継続_令和7年度(2025年度)で13年目)

【事業目的】

東区の特性を活かしたまちづくりを推進するため、東区で様々な分野で活躍する方々からの意見を事業に取り入れる。

また、区長が様々な区民の方々と直接対話し、その意見を区役所等の業務に取り入れ、事業の改善を図る。

【事業概要】

◎まちづくり懇話会の開催

様々な分野で活躍されている方から、年3回程度懇話会を開催する。

◎東区まちづくりカフェ（区長による区民との対話の場）開催

区民の「〇〇したい」「〇〇すればいいのに」などの声を聞き、「あなたならどうする？」というように区長との対話形式で区民の課題解決に向けて一緒に考える。

参加者が思っていることを発言できるよう堅苦しくない雰囲気での開催を目指す。



◀ R6.7月 秋津児童館で行ったまちづくりカフェの様子

【事業効果】

地域活動に意欲的な方や学識経験者など専門分野に精通した方々の意見や提案をいただくことで東区の特性を活かしたまちづくり事業に取り組むことができる。

区長が様々な区民の方々と対話することでより多くのニーズを把握することができるとともに、区民が区長と対話することで区民のまちづくりへの関心が高まり、地域活動への関心につながる。

【今後の展開・方針】

東区の特性を活かしたまちづくを推進するため、専門家や一般の方と意見交換する場を今後も設けていく。

【懇話会などの意見】

様々な地域課題を抱えている現状において、行政と地域が連携して課題の解決に向けた取り組みを行い、自主自立のまちづくりを推進していく必要があり、委員をはじめ、区民の意見を踏まえながら区のまちづくりに取り組んでほしい。

17 東区地域活性化支援事業 (継続_令和7年度(2025年度)で9年目)

【事業目的】

時勢等により発生した地域の課題に対して、**迅速に対応**し、解決を図る。

【事業概要】

課題に対して**迅速に、また臨機応変に対応**し、地域の活性化に寄与する事業を立案する。



令和7年度の取組 (別紙参照)

- (1) 【熊本地震から10年】東区ドキュメンタリー「揺れの記憶」
- (2) 【文化的処方】商店街の美術室

【事業効果】

- ・突発的に発生した課題等に対し、迅速な解決を図ることができる。
- ・地域の課題解決へ向け、時勢に沿った研修会や講演などを行うことで、地域が主体となって課題に取り組む「自主自立のまちづくり」を推進する。

【今後の展開・方針】

引き続き地域において突発的に発生した課題に対し、迅速かつ柔軟に対応する事業等を立案し、地域の活性化を図る。

【懇話会などの意見】

- ・懇話会や自治会アンケートなどの意見をもとに取り組まれているようで喜ばしい。
- ・自治会加入促進事業やゴミ出しルール啓発ポスターなどの取組は、良い方向へ進んでいると思う。
- ・自治会加入促進については、活動をわかりやすくし、地域共生社会の必要性を住民に周知していただくための取組は大事。

18 新規 多文化共生のまちづくり事業 (令和8年度(2026年度)1回目)

【事業目的】

- TSMCの熊本進出に伴い、増加する外国人住民と地域住民の異文化理解を深めることを目的とする。
- また、地域住民との交流イベントを通じて、外国人住民が地域活動へ関心を持ち、積極的に参加するきっかけを創出する。

【事業概要】

- 公民館講座を活用し、日本の伝統文化紹介イベントを実施。また、熊本郷土料理作りを地域と一緒に楽しめる企画も検討。
- 開催場所：公民館、学校、地域コミュニティセンター、健軍商店街等。
- 外国人住民が熊本市の生活に必要な情報を入手できるよう、多言語パンフレットを配布。

【事業効果】

- イベントを通じ、地域住民と外国人住民が信頼関係を築ききっかけをつくり、共に協力し合える環境を醸成する。
- 日本の文化や生活習慣の理解を深め、地域での円滑な生活に貢献。
- 外国人住民が地域課題解決の一員として積極的に関わる可能性を高める。
- 交流を通じて公民館講座生の学びを還元する場を提供する。

【今後の展開・方針】

- 地域の高校生と留学生との共同ワークショップ等、新しい地域交流の企画を検討。
- 子育てサークルや高齢者サロン等、地域交流の場を拡大。
- 各イベントの成果を基に、新たな活動内容や交流方法を調整。

【懇話会などの意見】

- 外国人などマイノリティーの人たちの考え方に配慮した多文化共生のまちづくりが必要

【R7.7月実施の多文化共生講座アンケートの意見】

- よかったです。日本語を勉強できるイベントに参加したい。
- 楽しかったです。Thank you!
- 和食を食べるイベントや着物に興味がある。

【イベント概要】

開催日：7月27日（日）13:00～15:00

場所：東部公民館、内容：和裁見学とお手玉づくり、

参加者：在住外国人 合計11名

(台湾5名、中国3名、アメリカ1名、ガーナ1名、イラン1名)

